

(7) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は高水準で推移しているものの、一服感がみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〃は上方に変更、〵は下方に変更)

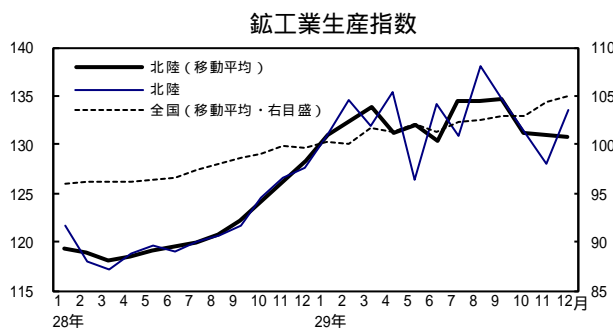
前回調査からの主要変更点

	前回(平成29年11月)	今回(平成30年2月)
鉱工業生産	高水準で推移	高水準で推移しているものの、一服感

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は高水準で推移しているものの、一服感がみられる。

10 - 12 月期には、電子部品・デバイスは、工場閉鎖の影響もあってスマートフォン用の電子部品等が減少した。化学は、医薬品が増加し引き続き高水準となった。はん用・生産用・業務用機械は、引き続き好調であるが一服感などから産業用ロボット等が減少した。繊維は、染色整理等が増加、金属製品は、建設用金属製品等が増加したものの、それぞれおおむね横ばいとなった。



(備考) 1. 22年=100、季節調整値、最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

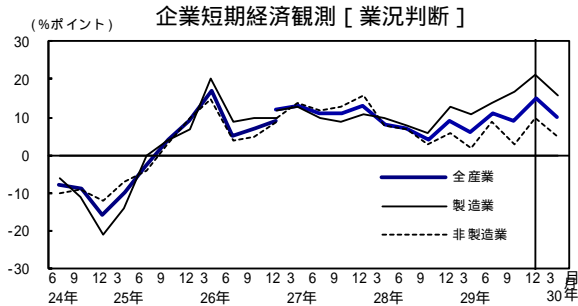
	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
電子部品・デバイス	20.8	10.3	8.1	3.7	5.3	1.0
化学	13.5	2.9	1.3	1.8	3.1	3.3
はん用・生産用・業務用機械	12.7	5.8	0.5	3.6	7.4	10.4
繊維	8.4	0.7	0.8	1.1	1.4	0.4
金属製品	6.0	0.7	1.4	0.2	0.2	4.1
鉱工業	100.0	1.9	2.6	2.4	2.4	4.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10 - 12 月期、12月は速報値。

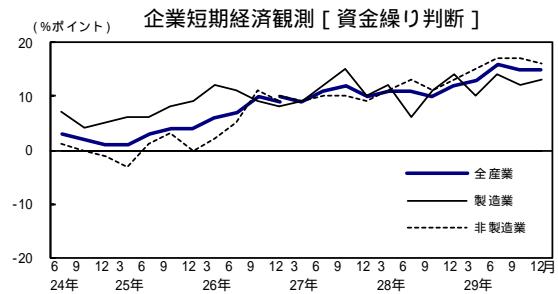
(7) 北陸

(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

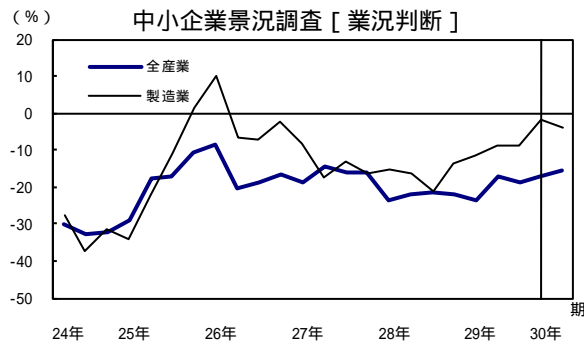
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年3月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

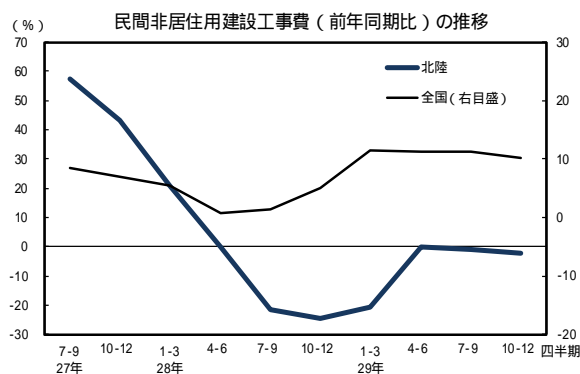


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「同業者の話では、現在は客が余りいないということである(不動産業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて減少している。



(備考)29年4-6月期以降は国土交通省「建築統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]
(前年度比、%)

	28年度実績	29年度概
全産業	13.3	12.5 (7.2)
製造業	19.7	25.6 (10.2)
非製造業	3.6	3.8 (2.6)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いている。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比0.8%増、11月は同1.0%減、12月は同0.9%増となった。

百貨店・スーパー販売額

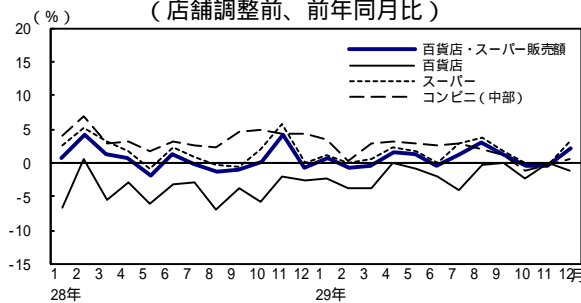
百貨店・スーパーは、10月は、飲食料品や高額品などの一部には動きがみられたものの、天候の影響もあって客数が伸び悩んだことなどから、衣料品中心に振るわず、前年を下回った。

11月は、百貨店の化粧品や高額品など一部には好調な動きがみられるものの、客数が伸び悩み、気温の影響もあって衣料品が振るわなかったことなどから、前年を下回った。12月は、降雪による客数の減少などがあったが、化粧品や高額品など一部では好調な動きがあったほか、気温の低下に伴い冬物商材が好調に推移したことなどから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

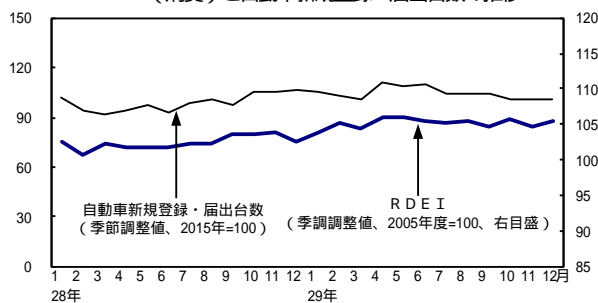
「大雪の影響によって、来客数が例年の90%と過去36か月で最も苦戦している。県外からの予約はキャンセルが殺到し、隣県からのマイカーによる来店が途絶えたことが大きく影響している (高級レストラン)」など「悪くなっている」とする回答が増加した。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	29年10-12月	29年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.1	0.8	1.0	0.9
百貨店・スーパー(*2)	0.6	0.5	0.3	2.2
百貨店(*2)	1.1	2.4	0.1	1.2
スーパー(*2)	1.1	0.0	0.4	3.3
コンビニ(*2)	0.3	1.2	0.2	0.5
乗用車(*3)	4.5	2.4	5.3	5.7
(季節調整値)(*3)	3.4	3.0	0.7	0.9

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

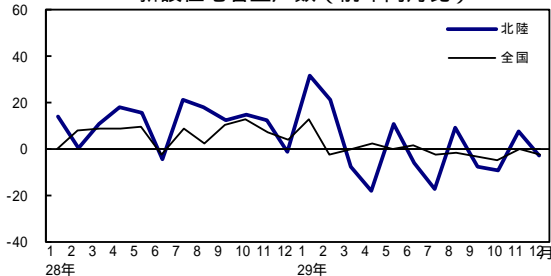
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。

分譲は前年を上回ったものの、持家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度を上回っている。

(%) 新設住宅着工戸数 (前年同月比)



(%) 公共工事請負金額 (前年同月比)

